

インドの経済成長は2008年にやや鈍化、2009年に若干の改善 か アジア開発銀行予測

[香港、2008年4月2日] 2008年のインドの経済成長は、中央銀行による金融引締政策が続き、また来年初めの議会選挙を控えて政府がインフレ抑制策を取るために緩やかなものとなろうとアジア開発銀行 (ADB) の最新レポートは述べている。

本日発表された ADB の基幹年次経済刊行物『[アジア開発展望 \(ADO \)](#)』2008 年版によれば、インド経済の成長率は 2007 年度の減速に続き、2008 年度も 8.0% とやや鈍化するものと見通している。2009 年度は、個人消費の回復と金融政策緩和を受けて 8.5% に回復すると予測した。因みに 2007 年度のインドの経済成長率は 8.7% だった。

ADB のチーフエコノミスト、イフサル・アリは「経済成長のペースは若干もたついているが、インド経済にはまだ相当な勢いがあり、このダイナミズムが経済を下支えするだろう」とした上で、「グローバル市場の混乱と世界経済の減速の下でインド経済の減速を最小限に止めるためには、マクロ経済政策の課題を克服する必要がある」と述べている。

同報告書は、今後2年間のインドの経済成長は現在の金融引締政策が緩和されるタイミングと規模によるところが大きいと強調している。とりもなおさずこの金融緩和政策は、主として国内の食料生産高と国際商品価格の動向にかかっているものと言えよう。

一方、個人消費の伸びは、賃金の大幅な上昇、所得税控除、2008年度予算の下で実施された農家の債務免除、換金作物の高値、および公務員の賃上げ等に支えられて、2008年度も6%強となるものと予測している。

しかし、旺盛な投資意欲がある一方で、国内総固定資本形成は減速するものとみられ、これが全体的な経済成長減速の一因となるものと予測している。すでに2008年初頭に予定されていた新規株式の公開が何件か延期されたことは、インド国内企業が設備投資計画を見直し始めていることの証左と言えよう。

同報告書は、国内卸売物価の動向は食料・燃料の国内価格によるとし、2008年度は4.5%の上昇率となるものと予測している。同報告書はまた、2007年の冬作物の作付けが芳しくなく2008年の夏作物の作付け状況も見通しが良くないことから、2008年度の食用穀物や野菜の国内供給は厳しい状態が続き、インフレ圧力は継続するものと警告している。

同報告書の予測では2009年度のインフレ率は5%程度となる。食用穀物などの非石油製品価格の低下は、国内の石油製品価格の上昇によって相殺することとなり、更には議会選挙も2009年のインフレを緩和する材料となるかもしれない。

2007年、繊維製品や手工業など利益率の低い産業部門の輸出はルピー高の打撃を受けたが、ビジネスサービスや資本集約的な製造業などの高付加価値部門は輸出増加が続いた。同報告書は、2008～09年度のルピーの対ドル為替相場は比較的安定的に推移するものと予測している。

同報告書の予測では、先進国市場がインドのハイテクサービス輸出に対して緩和策をとり、また市場の多様化が進むことが見込まれるため、インドの輸出は08年度に16%増に拡大するものと見込んでいる。同時にインドは高レベルの投資維持のため資本財や中間財の輸入を引き続き増加させるため、経常収支赤字は08年度の2.2%から09年度には2.6%に拡大するものと予測されている。

同報告書は、2007年から08年の種苗期以降に予想される農産品供給ショック、食料品価格上昇、金融引き締め政策、およびグローバル経済の停滞が今後のインド景気浮揚に対する主な下ぶれリスクとなるようとしている。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

同報告書は、インドは力強いダイナミズムに助けられより高い持続的成長路線に移行したとしつつも、今後インド経済が根本的に変革してゆく上で、国内農業部門の活性化、労働生産性の向上、新たな財政改革の指針、および経済構造改革の継続などが大きな課題となるものと指摘している。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADB のニュースリリース (和文) は、下記 URL にてもご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>